

# 南相馬市 地震・津波等ハザードマップ

## 地盤の揺れやすさマップについて

- 地盤の揺れやすさマップは南相馬市全域を対象として「地震防災マップ作成技術資料（平成17年3月内閣府（防災担当）」に準拠して作成したものです。
- 解析のための地区単位は50m四方に分割した区域としています。
- 実際に発生した恐れがあり地域に大きな影響を及ぼす次の表の地震を想定しています。

地震名称	双葉断層地震	福島県沖地震	直下の地震
気象庁マグニチュード	7.0	9.0	6.9

- 地表から数10m程度の深さまでの地盤の状況を反映して揺れ（地表の震度）の大きさを算定しています。
- 地域の揺れやすさとして起こり得る最大震度を50m四方に分割した区域（以下「50mメッシュ」という。）に表示しています。
- 東日本大震災により変化した地盤状況の調査結果を用いて解析しています。
- 液状化危険度については「地盤の揺れやすさマップ」に記載している震度が5.4以上の揺れが発生する場所において、地下水位の高い砂質地盤の地域では、液状化する危険があります。

## 地域の危険度マップ(建物倒壊危険度マップ)について

- 地域の危険度マップ(建物倒壊危険度マップ)とは、南相馬市全域を対象として地震の揺れによる建物被害を表示しています。
- 解析のための地区単位は50mメッシュとしています。
- 構造(木造/非木造)、建築年次を考慮して建物被害を計算しています。
- 対象となる建物は平成26年3月末時点の建物ですが、次の建物は含まれていません。
  - ◆国・県・市の財産である建物
  - ◆ガレージ、牛舎、ビニールハウス、温室などの壁のない建物
  - 建物のないエリアは着色してありません。
  - 液状化の影響や耐震補強の有無を考慮していないため、個々の建物の倒壊危険度を示すものではありません。

### 地震と建物被害

建物が地震によって倒れるかどうかは、揺れの大きさ（震度）や液状化など建物建っている地盤の条件と、建物そのものの構造や老朽度、耐震改修の有無の組み合わせで決まります。「地盤の揺れやすさマップ」による自宅付近の震度と、建築時期を次の表にあてはめ、自宅の倒壊危険度（全壊率）をチェックすることができます。なお、計測震度は地震計に記録される揺れの大きさで、同じ震度6強でも、計測震度(6.0~6.4の範囲)によって、建物の全壊率は大きく異なります。

震度階級	計測震度	木造建物全壊率(%)				非木造建物全壊率(%)			
		昭和34年以前	昭和35年3月5日～35年	昭和46年以前	昭和47年5月5日以降	昭和46年以前	昭和47年5月5日以降	昭和48年以前	昭和49年以降
5強	5.0~5.4	0	0	0	0	0	0	0	0
6弱	5.5~5.9	0.3~9.7	0.2~5.9	0~0.9	0.2~1.5	0.2~1.7	0~0.4	0~0.4	0
	6.0	17.7	10.6	1.5	3.1	2.6	0.6	0.6	0.6
	6.1	28.9	17.4	2.7	4.8	3.9	1.0	1.0	1.0
	6.2	42.7	26.6	4.0	7.2	5.8	1.5	1.5	1.5
6強	6.3	57.3	37.7	7.0	10.4	8.2	2.3	2.3	2.3
	6.4	71.1	50.0	10.6	14.5	11.4	3.3	3.3	3.3
7	6.5~6.8	82.3~97.9	62.3~89.4	15.3~36.7	19.5~39.7	15.4~32.2	4.8~12.2	4.8~12.2	4.8~12.2

計測震度と建物全壊率の関係（「東南海・南海地震対策に関する調査報告書」平成16年内閣府より）

### 地震に備えて

- 地震は突然やってきます。被害を少なくするには日頃からの準備が大事です。
- 住宅被害の軽減
    - ・自宅の倒壊危険度をチェックしましょう。
    - ・耐震診断を受け、必要な耐震補強工事を行きましょう。
  - 人的被害の軽減
    - ・家具や電化製品に転倒防止装置を付けましょう。
    - ・緊急地震速報に注意しましょう。
  - 地震後に備えて
    - ・非常持ち出し品と最低7日分の食料を準備しておきましょう。
    - ・地震時の避難所等を確認しておきましょう。
    - ・家族との連絡方法を確認しておきましょう。

### 「ぐらっ」ときたら

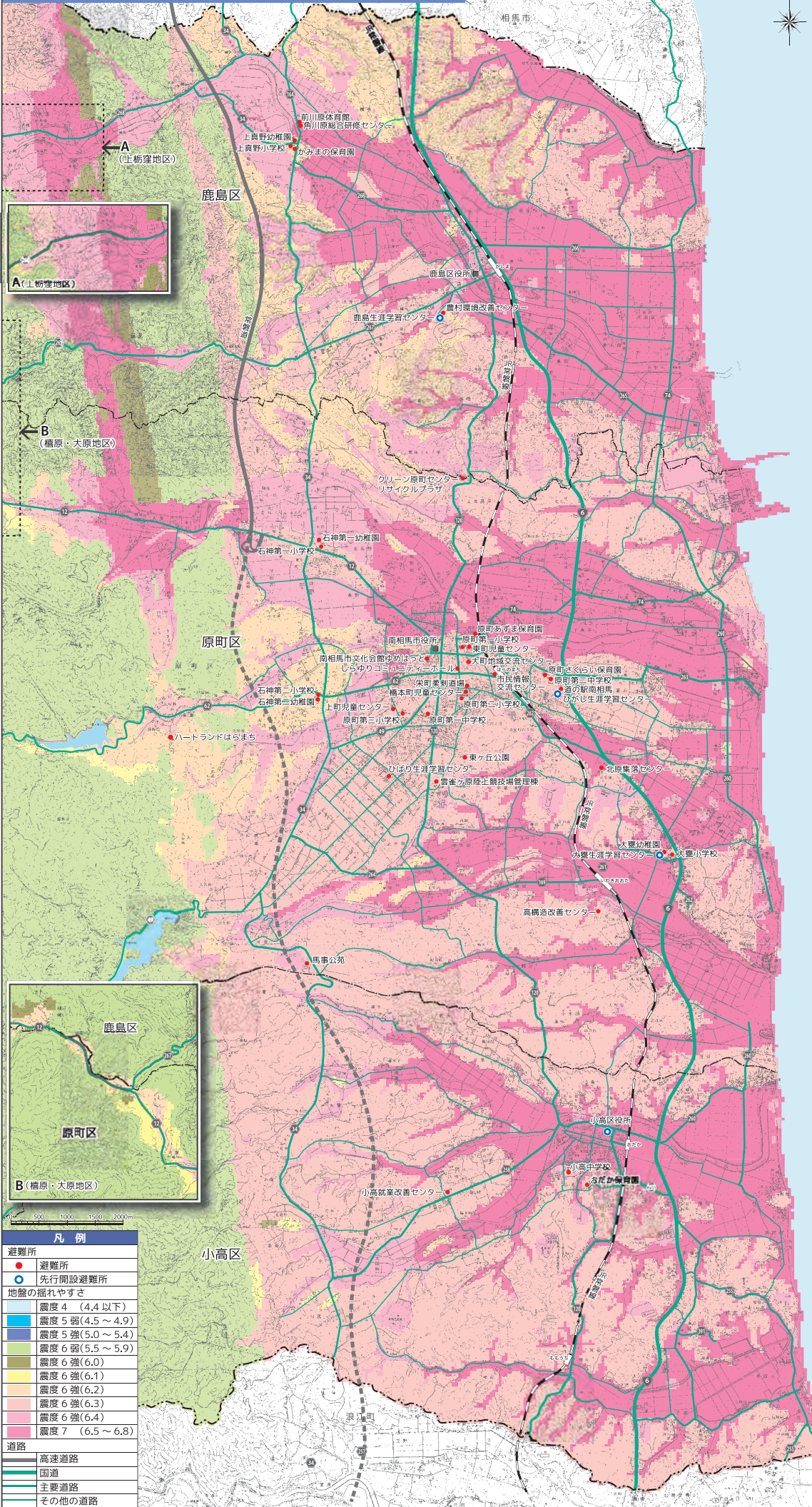
地震の発生で「ぐらっ」ときたときには、あわてず自分のいる場所に応じて行動し、揺れがおさまってから避難所等に避難してください。

- 家の中
  - ・机の下にもぐる（無理なら座布団や本で頭を守る）。
  - ・家具などの転倒や落下物に注意。
  - ・ガラスの破片が危険なので、裸足で歩かない。
  - ・揺れがおさまったら火の始末。
- スーパーなど
  - ・バッグなどで頭を保護。
  - ・ショーウィンドウや売り場から離れ、壁際で待機。
  - ・店員や係員の指示に従う。
- 学校・勤務先
  - ・机や作業台の下にもぐる（無理なら座布団や本で頭を守る）。
  - ・ロッカーなどの転倒や、OA機器の落下に注意。
- 中高層建物
  - ・ドアを開けて、逃げ道確保。
  - ・エレベーターは絶対に使用せず、階段を使って避難。
- 路上
  - ・バッグなどで頭を保護。
  - ・公園や空き地など安全な場所に避難。
  - ・ガラスや看板などの落下に注意。
  - ・ブロック塀や自動販売機、切れた電線などには近づかない。
- 車の運転中
  - ・ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とし、道路の左側に車を停める。
  - ・揺れがおさまるまで車内に留まる。
  - ・ラジオで地震情報を聴く。
  - ・車を離れる時は緊急時に移動できるようにキーを付けたままにする。
- バスや電車の車内
  - ・手すりやつり革に両手でしっかりとつかまる。
  - ・むやみに非常口を開けたり、勝手に車外に飛び出したりしない。
  - ・乗務員の指示に従う。
- 海や山
  - ・海岸からすぐに離れ、安全な高台に避難する。
  - ・斜面の崩壊など状況をよく確認しながら避難する。

### 災害から身を守るために

被害を減少させるためには、市民一人ひとりが、この地震・津波等ハザードマップの内容をよく理解していただくことが大切です。また、災害から身を守る「自助」、隣近所が助け合って地域を守る「共助」により、地域の防災力を高めていこう、家族や地域で話し合ってみましょう。

## 地盤の揺れやすさマップ（平成26年3月時点）



## 地域の危険度マップ（建物倒壊危険度マップ）（平成26年3月時点）

